

学校教育目標	心豊かに学び合い、ともに伸びる子 ○豊かな人間関係の中で学び合い、自分の考えを深める子を育てます。(知) ○相手の心を思いやり、共に生きていこうとする子を育てます。(徳) ○心身の健康を大切に、自分や生命を尊重する子を育てます。(体) ○地域の人やものとのつながりを大切に、地域と共に生きる子を育てます。(公) ○広い視野で物事をとらえ、豊かな生活の向上に取り組む子を育てます。(開)a2			
	創立 40 周年	学校長 鈴木 康史	副校長 齋藤 千枝	2 学期制 一般学級: 19 個別支援学級: 3

児童生徒数: 567 人	主な関係校: 城郷中学校 城郷小学校
--------------	--------------------

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	城郷中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける育成を目指す資質・能力を踏まえた「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
○自ら学び、鍛え、高める ～基礎学力の定着～ ○自分を磨き、ともに輝く ～豊かなコミュニケーション能力を発揮できる子～	城郷中学校 城郷小学校 東本郷小学校	「地域に愛され、地域に貢献する子どもを育成する。」 ・「城郷ブロックブランドデザイン」に示された育てたい資質・能力の育成に努める。 ・カリマネ研究推進ブロックとしての交流や研修、授業参観などを進める。 ・「あいさつ＝明るく、先に、いつも、続ける」を重点に目標として取り組む。 ・授業体験や部活動見学、職場体験、行事でのボランティア、地域清掃等に共に取り組む。

中期取組目標	「チーム小机」として全職員で愛と情熱、使命感をもち、夢と希望、そして活力と魅力に溢れた学校づくりを目指します。 ○あいさつを大切に、人と豊かに関わり、児童一人ひとりが互いのよさを認め合い、自分らしさを発揮できる学校づくりを目指します。 ○個に応じた指導を充実させるとともに、児童に「確かな学力」(基礎・基本と問題解決力)をつける学校づくりを目指します。 ○学習・生活面でのスタンダードを大切にしながら、物事の善悪を正しく判断する心・規範意識を育てます。 ○体力向上に向けての実践を推進し、学校生活の中での体力向上に取り組めます。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
知 生きてはたらく知	①探究的、問題解決な学びによって学ぶ意欲と学ぶ力を身に付けるように、カリキュラムの運用による見直しコロナ禍においてもできる限り、対話的な学びの確保を意識した授業改善に努める。②基礎・基本の定着を図るとともに、自ら分かった経験をもってパワーアップタイムや家庭学習に臨めるように授業改善を図る。
担当 角田 有光	
徳 豊かな心	①コロナ禍で制限されているが、小机小の特色を高学年から低学年に伝えていけるようにたてわり活動異学年交流で仲を深めたり、中国との交流など積極的に生かしたりを工夫していく。②自己肯定感を高めることができるように、学習や活動を行う中で各学年に合っためあてをもち、振り返ることで、達成したことを認め合うようにする。
担当 二川 黒木	
体 健やかな体	①児童が楽しみながら基礎体力を高めることができるように、KSGの時間等を活用してコロナ禍でも継続して運動不足解消や意欲的に運動に取り組めるように内容を工夫する。②コロナ対策を充実し、子どもに健康を意識した生活習慣の定着を図るとともに、安全な学校となるように情報共有と改善に努める。
担当 角田 鈴木	
公 持続可能な未来への志	①自分たちの学習や活動が将来や世界につながっていることを意識できるように、児童や教職員、地域にSDGsの段階的な浸透を図る。②将来生きて働く資質・能力を身に付けるように、GIGA端末を活用することができるようにし、教育課程全般の関係性を見直し、地域や関係者と共に達成感ある学習・活動を行う。
担当 佐藤 佐野	
いじめへの対応	①いじめの早期発見とサポートができるように、児童支援専任が中心となり教職員全体で児童を見る意識を高め、月一回の児童理解の時間に情報交換を行うと共に、家庭との連携を深める。②いじめ防止の徹底を図るために、「小机小いじめ防止基本計画」を見据え全職員で理解、実践、見直しを行う。
担当 石川 二川	
人材育成・組織運営(働き方)	①授業実践や多様な機会を通して、学習や児童指導の課題を話し合ったり、実践力を高めたりできるように、メンターチームを組織し、活動時間を確保するとともに、リーダーを中心に活動内容を計画する。②教職員一人ひとりがもてる力を発揮して、主体的に学校運営に関わっていくように、教務・主幹教諭が中心となって効率化を図る。
担当 佐藤 角田	
持続可能な学校運営	①教育課程の改訂に合った地域と学校の活性化を、継続と見直しの観点でバランスよく捉え直すために、地域との関係を深め、学校運営協議会や地域コーディネーターなどを機能するようにする。周年行事への準備も、学習の中で行える方法を工夫する。②休校体制などを鑑みて、「働き方改革プラン」に基づいた教職員の取組の検討を図る。
担当 佐藤 角田	
児童指導	①各学級での指導を徹底するために、「小机スタンダード」を教職員が共有する。②「あいさつ世界一」を目指し、明るく、いつも、先に、続けることを児童に意識させるために、教職員自らが手本となってあいさつをしていく。また、「あいさつ運動」を充実させ、年間を通して目指していけるようにする。
担当 石川 二川	
公共心と社会参画	①社会参画意識を育み、自分づくりとしての探究的な関わりとなるように、生活科や『横浜の時間』等を活用し、サクラソウプロジェクトやJA、新横浜公園、小机城にかかわる人など地域・保護者・各機関・施設等の協力を得て、地域の材を生かした特色ある教育活動を教育課程へ位置付ける。コロナ禍での対応を考えて工夫する。
担当 黒木 石亀	
特別支援教育	①個の課題に応じた指導や支援が計画的に行えるように、支援が必要な児童について個別の指導計画や個別の支援計画を立てる。②効果的な支援が行えるように、各学年やブロック内での情報交換だけでなく、「わくわく」「国際教室」も含めて、特別支援コーディネーターや児童支援専任教諭も交えた話し合いを積極的に行う。
担当 佐藤 二川	